

幸せの追求

く 「天国」と呼ばれた村 く

脚本 … 宮下美和

主な登場人物

原田努

(はらだつとむ) 脳神経外科医。研究熱心。

未来

(みき) 脳科学者ではあるが、あらゆる分野でのエキスパート。天才。

望田明美

(もちだあけみ) 遺伝子学者で細胞学も研究。

野村慎治

(のむらしんじ) 物理学者でST(サイエンステクノロジー)のエキスパート。

田中真知子

(たなかまちこ) 二年前行方不明になるが発見される老婆。

田中実

(たなかみのる) 真知子の夫。十年前に行方不明になる。

小池

(こいけ) 原田の同僚。

原田さゆり

(はらださゆり) 原田努の妻。くも膜下出血で死亡している。

白井

認知症患者

女

火傷をした過去を持つ女

子供

足を切断した過去を持つ子供

その他

#1 「原田の疑問（病院・休憩室）」

病院の休憩室（舞台前）

※舞台奥は#2のMRI室（舞台奥暗転）

コーヒーを飲みながら、

休憩室のテレビを見ている原田。

（テレビの音）

：認知症の行方不明者が年間一人を超え、百人以上がその行方を未だに確認出来ていません。また家族等の届け出が出ていない方も含めればその数は、倍以上だと言われます。

原田

そんなにいるのか…。

（テレビの音）

：先日地元の警察に発見保護された、田中真知子さんは、二年以上行方が分からず、その間どうされていたのか、様々な憶測が飛び交っています。警察は、そもそもかなりの所持金を持っていたのではないかと。またコンビニの残飯なども食べて飢えを凌いでいたのではないかと記者会見で発表しています。

原田

：それはおかしい。

原田携帯を手に取り電話をかける。

原田

ああ、俺だ。小池、認知症患者の徘徊の傾向が出ている患者さんの、MRI画像を用意しておいてくれ。…ああ、頼む。

電話を切る。

(テレビの音)

…先程、行方不明になっていた田中真知子さんご本人とインタビューが出来ましたので、そちらをご覧ください。

別空間に田中真知子とレポーターが現れる

レポーター

真知子さくん、二年もの間、どこにいらしたんですか？

真知子

天国へ行って、お爺さんに会ってきました。

レポーター

(信じてない様子で) そうですね。お爺さんは元気でしたか？

真知子

ええ、元気でしたよ。前とは比べ物にならないくらい。

レポーター

お爺さんは、10年前に失踪したんでしたよね？その事は覚えてますか？

真知子

はい。お爺さん、ずっと天国にいたんです。

レポーター

真知子さん。食事はどうされてたんですか？

真知子

天国の人達が出てくれましたよ。美味しかったです。

レポーター

…そうですね。

(テレビの音)

真知子さんは、失踪前に認知症を患い、インタビューの様子からもお分かりだと思いますが、ご本人から行方不明の間、何をしてたかを確認する事は、かなり困難だと思われれます。ですが、まずは無事に発見された事に関係者は安堵しているようです。それではここからは専門家の方に認知症の症状について詳しくお話を聞いて行きたいと…。

コーヒーを飲みきって出て行く原田。(退場)

田中真知子の別空間だけ浮かび上がり、舞台溶暗

※テレビの音の間もインタビューは続いている(無言芝居)

舞台転換(＃2へ、休憩室撤去)

真知子

私は、お爺さんと一緒に居たかったのに…。お爺さんが帰って…。ここにいちやいけないって…。(泣き崩れながら)あそこは天国だったのに。私は天国に居たかったのに…。

暗転
S E 「テレビの音（CMへ移行する時の音）」

#2 「原田と小池の推測」

MRI室。(舞台奥)

小池と原田がMRI画像を見ている。

小池 ……で、何なんですか？原田先生。

原田 田中真知子さんの失踪事件…見つけたからもう事件ではないが、知ってるか？

小池 ああ、ワイドショーでやってますね。二年以上行方不明だったとか。そんな事もあるんですね。それがどうかしたんですか？まあ、脳外科医として興味があるのは分かりますが…。

原田 彼女のインタビューを聞いたが、何か変なんだ。言ってる事は、妄想のようなんだが、受け答えもしっかりしているし、質問の意味も理解した上ではぐらかさそうともしない。

小池 なるほど。認知症患者は答えが分からないと、殆どが分からないと答えますけど、中には詰まったり、はぐらかさそうとする傾向もありますからねえ。まあ、どれだけ重度かにもよりますが、徘徊していたとすれば、それなりに症状も進んでいたでしょうから、はっきり答えてい

たとすれば、確かに疑問ですね。

原田 それに、自分の旦那が10年前に失踪していた事もちゃんと理解していた。

小池 それも、変ですねえ。時間の感覚がちゃんと備わっていると事ですか…。でも、答えが妄想の域をでないのあれば、やはり認知症なんじゃないですか？

原田 ……そうかもな。

小池 それはそれとして、認知症患者のMRI画像で徘徊傾向のある人を調べて欲しいという事だったので、他の病院の患者のも取り寄せて見たんですけどね。ちよつと気になる事がありました…。

原田 何か分かったのか？

小池 全体的な傾向ではないんですが、何人か不思議な箇所がありました…。

(MRI画像を原田に見せる)

原田 (画像を見ながら)…ん？何だこれは？

小池 ね？おかしいんですよ。海馬の一部が肥大してるんです。

原田 脳の組織が成長してるってことか？そんな事あるはずが無い。正常でもあり得ない。

小池 ええ。だから僕も気になって、この患者の事を調べて見たんです。もししたら、認知症の診断テストでは、確かに記憶の混乱や欠如といった

症状が出てはいるんですけど…。

何かあるのか？

看護師にも聞いてみたんですけど、やたらと方向感覚だけは良いみたいで…。

方向感覚？

はい。放っておいても、一人でレントゲン室に行けたり、薬を取りに行けたり、付き添いなしでも病院に一人で来れたりするそうなんです。自分の家が分からなくなる事もなく…ただ、徘徊の傾向もある。それもおかしいんですね。徘徊しても、ちゃんと家に帰って来れるそうなんです。

海馬の嗅内皮質が方向感覚を司る位置だと、最近分かったらしいが…。そこだけ回復してるってことか？

この画像だけで判断するなら、むしろ前より良くなってるって言ってもいい。

間

どう考える？

神様の仕業ですかね。

原田

小池

原田

小池

原田

小池

原田

小池

原田

(笑って) 何だ、それ？

小池

どんどん消えて行く記憶の中で、生きて行く力を少しだけ、神様が与えてくれる…みたいな。

原田

(笑って) 意外とロマン主義だな。

小池

だって、それ以外にどう説明できます？この症状。

原田

敢えて言うなら、ADHDやアスペルガー症候群の類かな。

小池

ああ、なるほど、アスペルガー症候群…。確かゴッホやアインシュタインもそうだったんじゃないかって言われてますよね。

原田

(頷いて) 脳に障害を持って生まれると、逆に特化した才能を持ち合わせている事が時々ある。

小池

一瞬見ただけで全てを記憶したり、絵の才能に長けていたり、難しい計算式を頭の中だけで出来てしまったり…。

原田

それに、事故で脳に損傷を負った場合にも、他の組織が損傷部分の機能を補う事がある。この現象はそれに近いものがあるのかもしれない。

小池

確かに。ですが、認知症の場合は、簡単に言えば脳の劣化ですからねえ。同じ事が当てはまるんでしょうか？皆お年寄りですよ。

原田

そうだな。まあ、脳自体まだ分からない事が多いんだから、今はまだ神秘的な現象として受け止めるしかないな。お前の言う神様の仕業ってやつだ。

小池 そんな事言って、どうせ調べる気でしよう？神秘的な事なんて一番信じないタイプのくせに。

原田 (笑って) 俺を、どんな奴だと思ってるんだよ。幽霊ぐらいなら信じるぞ。

小池 ないない。幽霊だって、脳が見せる幻影ぐらいに思ってるんでしよう？そうかもしれない…。

原田 原田先生は、色んな事を追求するのが好きですからねえ。研究大好きな外科医って有名ですよ。何で大学院に残らなかつたんですか？

原田 研究室だけじゃ、分からないって思ったからなあ。現場にいなきゃ患者さんの様子も見れないし…。

小池 事件は現場で起こってるんだ！

原田 …うん。

原田 突っ込み無しですか…。まあ、いいです。

小池 ところで、この画像ちよつと貸しといてくれるか？もう少し調べたい。はいはい。あ、何ならここ(この部屋)使っていいですよ。暫く予定も入ってないんで。

原田 おお、悪いな。

小池 俺、休憩行ってきます。(煙草を吸う真似)

原田 そろそろやめろ。良い事無いぞ。

小池
原田

知ってます。でも吸うんです。
不良め。

小池退場

原田MRI画像を見ている。

暫くして…

原田

(空を見つめて) 幽霊は信じたいな…。さゆり…。

舞台溶暗く暗転(転換#3へ)

SE「機械音」

声①(野村)

この先生、気づくかもよ。かなり頭も良い。ま、未来(ミキ)には敵
わないけどね。

声②(明美)

もともと候補者に入っていた人よ。

声①(野村)

原田努 五二才か。ここに来るにはちょっと早いな。でも呼んじゃう？

声②(明美)

ダメよ、そんなの。危険性も高いんだから。なるべく寿命は全うしな
いと…。

声③(未来)

彼の探究心が強ければ、ここに辿り着けるかもしれない。その時は、

受け入れる。

声② (明美)

受け入れるの？今までそんな事、一度も経験した事無いわ。

声③ (未来)

私はね。こういう人が大好きなの。好奇心を持って、何事も果敢に追求する人間が。

声① (野村)

未来と似てるな。さて、辿り着けるかねえ、この先生。ここ「天国」に…。

SE 「機械STOP音」

#3 「田中真知子（真知子の病室） ～未来との出会い」

田中真知子が入院している病室（舞台奥）

※病室の外の空間も作る（舞台前）

原田が入ってくる

原田 失礼します。

真知子 どなた？

原田 （少し考えて）…覚えてませんか？

真知子 いえ、あなたとは初対面のはずですよ。どちら様？マスクミの方？

原田 （少し首を捻ってから）…いえ、失礼しました。私脳外科医でして、

この病院ではないんですが、認知症について調べてもいるものです。

あなたが、ここに入院していると聞いたものですから…。不躰で申し

訳ありませんが、少しお話をさせてもらってもよろしいですか？

真知子 （ため息をついて）最近テストばかりね…。さっきの質問も私をテ

ストしたんでしょう？あなたを覚えてるかどうかなんて…。

原田 これは、本当に申し訳ありません。認知症の診断結果はこの病院の医

師に聞きました。何でも認知症の症状が改善されるとか…。どうに

も信じられなかったものですから…。すみません、試すような真似を

して。

真知子

いいわ。慣れました。で、何をお聞きになりたいの？

原田

どこにいらっしやっただんですか？

真知子

(少し笑って) 率直な方ね。：「天国」です。マスコミにもそう答えてるわ。

原田

それは、天国のような所という意味ですか？つまり、美しい場所で「天国」としか言い表せないような…。

真知子

確かにそうとも言えるけど、あそこは、天国よ。「死」に怯える場所ではない。

原田

それは、死なない場所ってことですか？

真知子

(頷いて) 言葉通りです。

原田

…。

真知子

(寂しそうに笑って) あなたも、信じないんですね。でも、私は嘘は言ってません。

原田

率直に言えば、信じられません。あなたは、お爺さんともお会いになったとか？

真知子

ええ、とても若い姿でした。：何故、お爺さんは私に帰れなんて言ったのかしら、もうあの場所には戻れない…。

原田

何故、戻れないんです？

真知子

向こうから呼ばれなければ、あの場所に行く事は出来ないの。

原田

呼ばれる…。

真知子

…でも、向こうから戻ってきて、一つだけ分かった事があるわ。

原田

何です？

真知子

今後「天国」に呼ばれる人が分かるようになったの。

原田

？すみません、どういう事ですか？

真知子

何故かは分からないけど、その人の傍に行くと、耳鳴りがするの。頭

原田

が痛くなるほどではないけど「キーン」って音が聞こえてくるわ。耳鳴りですか…。

真知子

先生、あなたもよ。

原田

え？

真知子

あなたが、この病室に入っでいらした時、そして今も耳鳴りがするわ。

あなたも、これから先、あの「天国」からお呼びがかかるのね。

原田

私が？あの、天国は皆が行ける場所ではないんですか？

真知子

皆はいけないの。でも、あなたはあそこに行けるのね。…羨ましい。

原田

申し訳ない。やはり、私には信じ難い。あなたの症状にもし理由をつ

けられるとしたら、何らかの記憶操作を施されているのではないかと考えます。まあ、それすらも信じ難い事ですが…脳の記憶野に何らかのショックを与えて直接ビジョンを見せるといった…。

真知子

（笑って）こんなお婆ちゃんに、そんな事をしてどうするの？誰かが私を使って実験でもしたというの？

原田

その可能性はあります。

真知子

だったら、私が戻って来たのは何故？実験用のモルモットなら、最終的に殺してしまふんではなくて？

原田

…。

真知子

…私の言ってる事は信じられないかもしれないけど、もう信じなくていいわ。私はね先生、あたしが何処にいたかなんて事、もうどうでもいいの。

真知子写真を取り出し原田に見せる。

原田

（写真を返しながら）ご主人ですか？

真知子

（頷いて）あたしが悲しいのは、お爺さんにもう二度と会えない事。

折角会えたのに、一緒に居たかったのに、お爺さんに「帰れ」って言われて拒絶されたの。もう、何処にも居場所が無い…。お爺さんが居なくなつて、すぐに認知症になって、自分の事も他人の事も良く分からなくなつた。今、思えばその方が幸せだったかもしれない…。「天国」に行つて記憶がはつきり戻つて、お爺さんにも会えた。なのにお爺さ

原田
んだけ、また失った。こんな悲しい事無いわ。先生、もし出来るなら私をまた認知症にして……。こんな悲しい記憶を忘れさせて……。それが出来ないのなら、どうか……。どうかお帰り下さい。(泣き崩れる)
……失礼します。

原田部屋を出る。(病室の外へ)
そのまま病室側は暗転(素舞台へ)
道行き(舞台前芝居)

原田
やはり、実験なのかもしれない……。だとしたら、実験は続いている？……
耳鳴り……脳に何か埋め込まれているのか？何か信号を受信するようなものが……いや、そんな検査結果は聞いていない。俺が傍にいと耳鳴りがすると言っていた……分からない。どう言う事なんだ？

舞台溶暗

原田は考え事をしている様子のまま。

SE「機械音」

声①(野村)
惜しい。いいとこまで来てるけどねえ、先生。

声② (明美) ちよっと、何遊んでるのよ。未来は？

声① (野村) ゲートに向かっている。

声② (明美) フォローしなくていいの？

声① (野村) してますよ。しながら、先生の様子見てる。ちよっとこの先生を助けてあげようかななんて思ってたね。

声② (明美) 何する気？

声① (野村) 今、この先生がいる場所の近くに、次のお客さんを誘導してる。

声② (明美) ちよっと？何やってるの？尾行でもされたら、ゲートに辿り着けてしまおうわ。

声① (野村) 尾行すればね。別にいいんじゃない？未来だって受け入れるって言う

てるんだから、それに、僕がこれ位の事するのだって、未来ならとっくにお見通しだよ。

声② (明美) そうかもしれないけど…。

声① (野村) それにね。僕は、彼がここに来るのは、運命のような気がするんだ。僕達にとっても。

声② (明美) 運命…。

SE 「機械STOP音」

舞台灯りが戻ると、ポーンとしながら歩いている女性

が
いる。

原田

あの人は……うちの患者じゃないか？確か白井さんって……ちよつと白井さん。

白井、声に気づかない。そのまま歩いて行く。

入り退場を繰り返しながら、原田は白井を追いかける。

※舞台前芝居から、全面芝居へと移行。

時折原田は「白井さん」等、声をかけながら。

暫くすると一箇所だけ光に包まれた箇所がある（サスポット、ストロボ等で工夫）

原田

何だ、あれは？

SE 「ワープ音」

一回光が消える。再び点くと、白井は居なくなっている。

原田

白井さん……？

別方向から、未来が入ってくる。

未来

先生。やっぱり、来たわね。まあ、ここまでの誘導もあったみたいだけれど……（ため息をついて空を見上げる）全く。

原田

誰だ？

未来

私？未来よ。初めまして原田先生。お会い出来て光栄だわ。

原田

何故私を知っている？

未来

割と有名よ。あなたの論文も読ませてもらってるわ。腕のいい脳外科医であり、研究者でもある原田努先生。

原田

ここは、何なんだ？

未来

「天国」への入り口。

原田

バカなことを。彼女をどこにやった？

未来

そうね。先生に幻想的な事を言っても仕方ないわね。彼女は、そのゲートからテレポートして、私が作った村に着いてるはずよ。元々は廃村だった、日本のある村だけれど、外から入れないようにしてあるの。

原田

テレポート？

未来

出来るのよ。先生は物理は得意かしら？その装置は量子テレポーターションを応用したもの。

原田

量子コンピュータというのは聞いた事あるが…。まさか、物質の転送装置が実際に？

未来

さすが先生、よくご存じね。先生の世界でもコロラド大学の研究チームが量子もつれを応用して、微生物の転送を成功させている。まあ、凍結状態での転送だから、成功と言えるかどうか分からないけど。

原田

「先生の世界」？

未来

(少し笑って) ……そう言った方が分かりやすいかと思って…。決して、SFの世界ではないわ。実際にこの次元の世界。ただ隔離してあるだけ。そうね、転送装置の説明は違う人間からしてもらった方がいいわ。

原田

物理学者にね。私は、あなたと同じ脳科学者。色々なエキスパートが私の仲間にいるわ。

未来

やはり、実験施設か？

原田

正確に言えばそうかもしれない。でもあなたが思っているような所ではないわ。真知子さんの言ってる事は嘘ではない。本当の事よ。

未来

そんなバカな事…。

原田

確かめてみる？

未来

確かめるって…。

原田

そのゲートに入れば、そこへいけるわ。

未来

…。

未来

怖い？それはそうよね。何をされるか分からないものね。でも、今そのゲートに入らなければ、あなたは、疑問に思ったまま何十年も生きなければならぬ。それでもいいのかしら？

原田

…私の性格を知ってるみたいだな。

未来

ええ、知ってるわ。というより、好奇心の無い人間が、ここまで来れない。

原田

じゃあ、答えは分かっているはずだ。

未来

…ようこそ原田先生。ご招待いたしますわ。私達の「天国」に…。

SE 「ワープ音」

光が点滅し、暗転。

BGM 「天国へ」

転換#4へ

灯りがつく。穏やかな村のような所。

庭がある日本家屋的な家が奥にある（後の原田が居住する場所）

数人が、笑い話をしながら行き交い、時折子供も走ってくる。（会話中も）

暫くして未来が入ってくる。続いて原田。

未来

ここが、私達の村「天国」よ。

原田

ここが…。若い人もいるのか…。というより、ほとんどが若い人のようなが…。

明美が入ってくる。続いて野村。

明美

聞きたい事は、山程有るでしょうね。

野村

そりゃそうだろ。見た目はほのぼのした村だけど、いきなり五十年先位に来たようなもんだからな。

原田

君達は？

未来

こっちは、望田明美。遺伝子研究のエキスパートであり、細胞学者でもあるわ。

明美

初めまして。(握手をする)

未来

こっちは、S T、サイエンステクノロジーの担当であり、物理学者の野村慎治。あの転送装置の開発者で、あなたをここまで誘導した張本人よ。

野村

やっぱり、気づいていたか。

未来

別に、怒っちゃいないけど。

野村

初めまして原田先生。(握手して) あなたの推理と探究心には敬意を払うよ。

未来

さて、何でも聞いてちょうだい。

原田

…そうだな。どうしたものか…。

野村

先生の推理は？今、この状況を見てどういう所だと思ってる？

原田

ハッキリ言って、常識を無視した考え方をしなければならぬと思ってる。

明美

賢明ね。そうでなければ答えは導けないわ。

原田

実に馬鹿げた考えだが、脳科学者、遺伝子学者、物理学者、そしてこの村…君達がやろうとしているのは…不老不死か？

野村

いいねえ。さすが先生だ。正確に言えば『やろうとしてる』ではなく

実際に『やっている』だけどね。

原田 (明美に) 君は細胞学者でもあるといったな。

明美 ええ。

原田 とすると、細胞の再生もここでは成功しているのか？

明美 ご明察。人間なら、どの部位も再生可能な技術がここにはある。

野村 STAP細胞はありまうす！

未来 (咳払いをして) ちなみにIPS細胞も駆使してますけどね。

子供が原田達の前を走り抜ける。

原田 (子供を見送って) …若返りも可能と言う事か？

野村 エクセレント！素晴らしい推理だ！

未来 簡単に言えば、脳の記憶、機能はそのままに若返り出来るって事。

明美 勿論、病気があれば治しますけどね。

原田 ここにいる人達はそもそもが老人で、好きな年齢まで若返ってるって

事か？そんな事が…もしかして君達も？

未来 レディに年齢を聞くもんじゃないわ。

野村 まあ、本当の年齢は八十近いかな。俺達は、この村の最初の住人だ。

野村 あれは三十年位前か。

明美

もう、そんなになるのね。

原田

君達は一体何なんだ…？

野村

先生、ついこの間も言ってたじゃない。アスペルガー症候群。俺達は

正に、その脳障害を持って生まれてきた人間さ。

何だって？

原田

ご存知のように、脳に障害を持って生れてきた人間の中には、普通の人ではあり得ないような才能に特化している場合があります。

明美

私達の中でも、未来は更に特別でね。私や野村の才能は、せいぜい遺伝子配列を見てすぐ覚えたり、頭の中で難しい計算をしたりするぐらいだけど、未来の場合は、あらゆる研究データを組み合わせて、新しい理論を展開させて実現させる。本人は脳科学者と言ってるけど、私に言わせれば全ての分野においてエキスパートよ。

未来

でも、そのせいで少し不便なところもあるけどね。

原田

障害が酷いのか？そうは見えないが…。

未来

障害自体は三人とも既に無いわ。ここに来る前に明美達に協力してもらって治す事が出来たから。ただ、脳の働きが強すぎて人よりも睡眠時間を多く取らなければならなくなったの。起きている時間はせいぜい十時間位よ。

野村

俺達は普通の人と大して変わらないけど、未来は特別だからなあ。ま

あ、脳ってのは働いた分、休まなきゃいけないらしい。

老人が通り過ぎる。

原田

老人でいたい人もいるのか？

明美

ああ、あの人はまだ、ここへ来て七年未満の人だから。

原田

え？

未来

ここへ来て七年間は老人の姿でいる事になってるの。勿論、生きる為の治療や脳の修復は施すけどね。

原田

田中真知子さんも…。

未来

そう。彼女は…知っての通りお爺さんが先にこちらに来ていてね。そのお爺さんに追い返されてしまったの。ちよつと可哀想な事をしたわ。

明美

七年間は、元の世界へゲートを通していつでも帰れます。やっぱり家族に会いたかったりする人もいるかもしれないから。

原田

七年…失踪届けの期限か…。

野村

そう言う事。ただし、それを過ぎたら二度とは戻れないけどね。

原田

若さを取り戻す代わりに、元の世界には戻れない。それはそうだろうな。

野村

そして、元の世界に戻った人間も、二度とここへは来れない。

原田

未来

原田

未来

原田

この存在を知られないように……か。

そうね。真知子さんには申し訳ないけれど……。

だいたいの事は分かった。だが疑問が二つある。

どうぞ。何でも仰って。

まず、私は帰れるのか？それから、どうやってお年寄りを君達の言うゲートに導くのか？

三人顔を見合わせる。

野村

未来

最初の疑問は、未来が答えろよ。ここに先生を受け入れても良いって言ったのは未来なんだからな。

……そうね。まずその前に、ここに来れる人は、誰でもいいわけではないの。私達が来ても良いと判断した人だけ。犯罪者や危険思想の持ち

主は勿論ダメ。でも基本的に一生懸命生きている人なら歓迎するわ。

もう一つ条件があるけど、それは行く行く分かると思うから、今は言わないわ。そして、あなたもここへ来れる条件を満たしていた。もと

もと導く予定でいたの。

その予定が、早まったのか？

いえ、今回は本当にイレギュラーだった。それに、いつでも帰って良

原田
未来

いわ。

未来！

（明美を制して）だけど、あなたはここを気に入ると思う。ここにきて今まで元の世界に帰ったのは、真知子さんだけ。私としては居てもらいたい。同じ脳科学者として。

私の知識なんて、必要ないと思うがな。

（少し笑って）ご謙遜を。

（咳払い）もう一つの疑問は、僕が答えましょう。お年寄りをどうやってここに導いたか。多少先生も気づいてるみたいだね。人間には一人一人弱い磁場を持っている。その磁場と遺伝子情報を解析して一人一人のGPSを僕らが作ったってわけき。誰を選ぶかは、直接僕らが行って候補者を何人か選ぶ。ま、ここはアナログだけだね。髪の毛やら何やらでその人の遺伝子情報が分かれば、そこからは全て遠隔操作で、その人の情報がここに送られる。

それで、私の情報も君達は知っているのか。

その通り。脳の命令は簡単に言えば全て電気信号に置き換える事が出来る。だから、先生が見てる景色も考えている事もこちらで受信する事が出来るのき。逆に、あるシグナルを送れば脳に直接働きかけ、その人を誘導する事も可能って事。脳に受信機を埋めこまなくてもゲー

明美

未来

原田

未来

野村

原田

野村

トまで誘導出来るって訳。

原田

のぞき見されてるようだな。誘導まで出来るなんて。

野村

ま、いい気分はしないよな。申し訳ない。ただし、誘導するのは寿命を全うする数年前のみで、その他は使用してないよ。何せ危険性が高いんでね。

原田

危険性…？

野村

あ、言っちゃまずかったかな？（明美を見る）

明美

いずれ気づくと思うけど…。先生は海馬の肥大を目撃してるから。

原田

そうだ…。認知症の何人かは海馬が肥大していた。あれは、君達を送ったシグナルが原因か？

野村

そうなんだけどね…。（言いくそうにしている）

未来

…私達がシグナルを送ってここに辿り着ける確率は、30%位なの。

原田

何だって…？残りの70%は？

未来

シグナルを受け取れずに、認知症を進行させたり、受け取れたとしてもゲートまで来れずに、そのまま行方不明になったりしているわ。そこまで行くとはどんなにシグナルを送ってももう反応しなくなるし、私達もその人からの情報が受け取れなくなるの。

原田

もしかして、ここ数年で認知症患者が軒並み増えているのも、それによって行方不明者が増えているのも、君達のせいなのか？

未来

…否定はしないわ。

原田

認知症じゃない人まで認知症にさせてる？

未来

そうよ。

原田

君達は、何をやってるんだ！

野村

先生、徘徊という前提が無いと、人一人行方不明にすることは困難なんだよ。

明美

それに、さつきも言ったように、誘導するのは寿命を全うする数年前。

原田

ここに来れば勿論治療します。

ここに来なかった人は、周りの事も自分の事も分からなくなって死んで行くんだぞ！そんな事が出来る権利は誰にも無い！やはりここは、悪質な実験施設だ！

間

未来

私の力不足で、成功率はまだ低い。だけどこの人達を見て下さい。何度でもやり直せる人生がここにはある。愛する人といつまでも一緒にいられたり、やりたい研究をいつまでも追求できます。老いや死に恐れて生きる事はもう無いんです。私や明美や野村は脳に障害を持って生まれて来ました。ですが、この特化した才能は、この村「天国」

原田

を作る為に天が与えてくれたものだと、私は信じています。目の前に患者がいたら、最善を尽くして助ける。それがあなたの仕事。でも助けられなかった命もあるでしょう。その時、あなたはどう感じましたか？その時この存在を知っていたら、あなたはどうするでしょう？あなたになら分かるはず。助けられなかった命に一度でも後悔した事があるのなら、ここが「天国」だと思えるはずです。助けられなかった命…。

暗転

BGM 「穏やかな村」

#5 「穏やかな村」

灯り戻ると、再び村。

原田が女性と座って話している。

女は時折、手鏡を見ながら話している。

原田

…そうですか。あなたは火事に遭われて…。

女

ええ、あれは二〇才の時でした。火傷で顔の半分が引きつった状態になってしまったんです。

原田

美容整形は考えなかったんですか？

女

そんなお金はありませんでしたから。それから、五〇年引きつったままの顔で生きて来ました。勿論、結婚も出来ませんでしたし、何度も自殺も考えました。でも周りから「助かった命を無駄にしてはいけない」と言われて…。

原田

辛かったですよね。

女

そうですね。「辛い」という言葉では、言い表せませんね。こんな風に鏡を見る事なんて、ありませんでしたから。

原田

今は、幸せですか？

女

(少し笑って) ええ。それ以外の言葉では、言い表せませんね。

そこへ子供が走ってくる。

原田 (子供を呼びとめて) 坊や。楽しそうだね。

子供 こんにちは。確かに見た目は坊やですけど、あなたより年上ですよ。

原田 あ、すみません。つい。

子供 いえ。でも見た目がこうなると、やっぱり子供のように喋りたくなります。

原田 ます。その内あなたの事を「おじちゃん」なんて呼ぶかもしれません。

原田 ハハハ。

女性、会釈をして退場。

入れ替わるように子供が原田の近くに座る

子供 お医者様なんですよね？

原田 ええ、脳外科医です。

子供 僕は、リハビリセンターで働いてました。

原田 そうなんですか。…ところで、何故子供の姿を選んだんですか？皆さ

子供 ん、二〇代位が多いみたいですけど…。

子供 僕は小学生の時に、事故で片足を無くしたんです。

原田

それで…。

子供

はい。子供の時代からやり直したかったです。このまま暫く成長もして、今まで味わえなかった経験をしたいと思ってます。

原田

成程。以前は、車椅子だったんですか？

子供

義足をつけてました。陸上でパラリンピックにも出た事があるんですよ。

原田

それはすごい！以前も充実した人生を過ごしてらしたんですね。

子供

そうですね。悲嘆した人生を歩んできたわけではありません。でも、ここへ来て自分の足を再生してもらって、自分の足で歩ける喜びを知った時、とても感動しました。諦めていた事が実現したんです。こんな幸せな事はありません。

原田

幸せですか…。

子供

あなたも、その内分かります。では。

子供走って退場

入れ替わり野村が入ってくる

野村

おお、先生。例の転送装置の仕組みは分かっていたかい？

原田

ああ、野村さん。君に説明してもらったが、私は物理学者ではないの

でね。いまいちピンとは来ていないよ。

野村 (笑って) そりゃそうだ。(ペンを取り出して上下に振って見せる) これ、子供の頃やった事無かったかい？

原田 ペンが二本に見えるってやつだろ？

野村 そう。これが光の速さで動いたら、同時に二箇所ペンがある状態になるこれを「量子もつれ」っていうのさ。

原田 量子力学。アインシュタインの理論だよ。

野村 その通り。簡単に言えば、どちらにもある状態にしておいて、片方の情報を消してしまう。それが、量子テレポーション。スタートレックの転送装置は原子レベルまで分解して、再構築する考え方だったけど、それだと単純にクローンを作るだけだ。宇宙戦艦ヤマトのワープの考え方は、量子テレポーションに近いかもしれないけど…。

(笑う)

原田 ん？何だい？

野村 いや、スタートレックとかヤマトっていうのがね。君は、それなりの年代なんだなって思ってる。こうやって見ていると、若者にしかみえないが…。

野村 (笑って) 古かったかな？しょうがない。なんせ、先生よりかなり年上なんだから。でも、確かにこんな姿になると、自分でも勘違いする

けどね。

明美が入ってくる。

明美

この生活には慣れました？

原田

いや、まだ慣れないよ。夢の中にいるんじゃないかって、思ってるくらいだ。

明美

そうでしょうね。

原田

本当は、君達の研究施設を見せてもらいたいが、どうやら、それは許してくれなさそうだしね。

明美

ごめんなさい。それを見せたら、本当に元の世界に戻れなくなってしまふ。先生の為なのよ。

原田

そうだろうね。君達の研究データを元の世界に持って帰ったら、いきなりノーベル賞ものだ。

野村

それもいいんじゃないか？

明美

ちよつと…！

原田

(笑って)それはしないよ。世の中が混乱するだけだ。

野村

…そうだな。(明美を見る)…んじゃ、先生またな。いつでも話し相手になるよ。(退場)

明美

（話を変える様に）それでも、色んな方のお話は聞いて周ってるそう
ね。探究心の強い先生らしいわ。

原田

未来さんの言っていた「もう一つの条件」が分かったよ。皆、元の世
界にいた間、何らかの苦しみや痛みを抱えて生きてきた人間。

明美

そう。でも皆さん、それを受け入れて一生懸命生きてきた人達。ここ
では、その負の遺産を捨て去り、人生をやり直せる。未来はここを「幸
せの追求」が出来た村にしようと言ってたわ。この村を「天国」と名
付けたのは後から来た人達なのよ。

原田

幸せの追求：まさに天国か。俺にとつての幸せは…。

明美

…辛い経験をなさったみたいですね。

舞台溶暗（続いて別空間で#6スタート）

6 「回想く再会（過去の原田）」

※村のセットは残したまま（二次元芝居）

SE 「救急車の音」「電話の音」

別空間にオペ室が浮かび上がる。

※ストレッチャ―が入ってくる程度の簡易的なものでいい。電話を置く棚だけ設置

傍らで携帯で電話をしている若かりし頃の原田。

それとは別の電話で、看護師が救急の患者受け入れの対応をしている。

看護師

…男性40才。意識混濁。突然倒れ、ろれつが回らなくなった。救急受け入れ要請。

原田（過去）

（携帯から耳を離し）受け入れろ。

看護師

受け入れます。

原田（過去）

（携帯に戻り）すまん、さゆり。折角の誕生日に…ああ、申し訳ない。また帰りに連絡する。…ん？大丈夫か？声ははっきりしないぞ。ん？…切れたか。

看護師

先生！

ストレッチャーが入ってくる。
救急対応をする原田（過去）。その様子を残し
別空間の灯りが消え、村に戻る。

原田

あの時気づいていれば…。

明美

奥様は、大学時代の後輩だったんですね。

原田

ああ、彼女は薬学部だったが、サークルが一緒だね。そこで知り合った。俺にはもったいないくらい美しい女性だ。一目ぼれだった。頭も良かったよ。理解もあって、時間が読めない俺の仕事に対しても、何一つ文句を言わなかった。いつも笑顔で俺の帰りを待っていてくれたんだ。あの日以外は…。

別空間、再び灯りが点くと、そこは原田の家の居間。

※テーブルとイス程度でOK。机の上には誕生日ケー

キ

さゆりが倒れている。そこへ原田が帰宅してくる。

原田（過去）

さゆり？…（さゆりを見つけて）さゆり！さゆり！（さゆりを抱きか

かえる)

別空間の絵を残したまま。村に戻る

※別空間では、無言芝居で悲嘆にくれる原田（過去）の芝居が続く。テーブルのキーキを見て崩れる原田を残し、別空間は、徐々に暗転。

明美

クモ膜下出血：だったんですね。

原田

あの時、救急搬送された患者さんも、同じクモ膜下出血だったよ。そしてどちらも助からなかった。己の無力さをあれほど感じた事は無い。医者としても夫としても何一つ責任を果たせなかった。誰も助けてあげられなかった：何が医者だ。何が夫だ。

明美

後悔は誰にでもあります。例えそれが自分の責任でなくても。

原田

ここは、幸せの追求が出来る村だと君は言った。

明美

はい。

原田

ならば、私の幸せは何なのか、君達は分かっているはずだ。

明美

：はい。でも、この村でも初めての試みで、正直私は：あまり賛成出来ないんです。

原田

：クローンか？

明美

(頷いて) 未来から、さゆりさんのクローンを作るよう言われていま

原田

会えるのか？

明美

：彼女の遺伝子情報は採取できましたけど、彼女の記憶は、貴方からの脳情報から入手したもののしかありません。ですから、貴方と会う前の彼女の記憶はありません。勿論、平均的な日常会話や感情表現はインプットしてあります。

原田

「会えるのか？」と聞いてるんだ。

明美

：はい。会えます。ですが。

原田

全く同じ彼女ではない事は、私だって理解できる。でも、あの時、彼女の冷たい身体を抱いた時の悲しみを、私は忘れる事が出来ない。さゆりのぬくもりは、時と共に、どんどん私の中から消えて行くのに、あの冷たさだけは、今でも鮮明に覚えてる。彼女のぬくもりだけでも、私は取り戻したいんだ。

明美

：分かりました。

未来が、さゆりを連れてくる

思わず抱き締める原田。

原田

会いたかった…さゆり。ああ、温かい…。

泣き崩れる原田

複雑な表情をする明美

BGM「不安な再会」

暗転（転換#7へ）

※二幕ものなら、ここで一幕終了

#7 「未来の思い」

「天国」村の研究室

SE 「機械音」(セリフ中、徐々にフェードアウト)
未来が部屋に入ってくる。追って明美が入ってくる。

明美 待って、未来。ちゃんと話をさせて。

未来 もう眠いの。明日にしてみらえない？

明美 最近、あなたおかしいわ。何か焦ってるみたいで。

未来 おかしなことを言うのね。「焦り」なんて言葉は、無限に生きる私達にとって、最も似つかわしくない言葉だわ。

明美 そうやって、話をはぐらかす。最近のあなたは何を考えているか分からないわ。

未来 私が考えている事は、貴方も分かってるはずよ。ここの維持と存続と発展。それ以外にないわ。

明美 …維持と存続と発展。その3つに矛盾を感じ始めてるんじゃないの？

未来 …いいえ。そんな事はないわ。

明美 …そう。とにかく、原田先生にクローンを与えた事。私は、やっぱり納得できないわ。

未来

倫理観の問題？

明美

彼女は、先生が愛するさゆりさんではない。それでも、先生は幸せになれると思うの？

未来

彼が決める事よ。私達ではないわ。それに、彼を見る限り、私は正しい事をしたと思っっているけど。

明美

確かに、今はそうかもしれない。でも、これから先…。

未来

(遮って) これから先、二人は新たな歴史を作っていくの。さゆりさんといった時間より、更に長い時間一緒にいて、新たな愛を育んでいく。

私はそう思っているわ。

明美

そうして彼をここに引き留めるの？そうまでして、あなたは、彼に何を求めているの？

未来

…。

明美

今までの人とは違う。もしかして彼は、あなたにとって特別な存在なの？

野村が入ってくる。

野村

何だか騒々しいな。何かあったのか？

未来

…私が、昔愛した人の子供。

野村

は？

未来

原田先生は、昔私が愛した人の子供よ。勿論、私の子供ではないけど。

野村

おい、明美。未来は何言ってるんだ？

明美

ちよつと、黙ってて。

野村

…はい。

未来

彼の父親は、私と大学時代の同級生だった。私のアスペルガー症候群の症状は、貴方達も知っての通り、コミュニケーション能力が極端に劣っていて、怖がりで、神経過敏だった。だけど、成長するにつれて多少、外へも出れるようになって、大学にも入った。大学は講義を受けているだけだったから、特にコミュニケーションをとることもなくどうにか大学に通えていたの。私は、後ろから2列目の一番外側の席にいつも座っていた。神経過敏な私は、その席意外、講義を受ける事が出来なかった。

野村

いつも決まった行動をとらないと、パニックになってしまうんだよな。

俺達みたいなやつは。

明美

ちよつと。

野村

はいはい。静かにしています。

未来

ある時、気づいたの。その席がいつも空いている事に。そして、その理由も分かった。

明美
未来

誰かが確保してくれてたのね。あなたの席を。

そう。それが、原田先生のお父さん、原田誠。彼は、私が来る寸前まで、自分の荷物をそこに置いて、私が来るとその荷物をどけて私の席を作ってくれていた。

野村

優しい人だったんだな。先生のお父さん。

明美

でも、何故そんな事をしてくれたの？

未来

分からない。私に対する憐れみか、同情か、本当に優しい人だったのか…。

野村

そんなの、どうでもいいじゃないか。結果、未来は助かったんだから。

未来

その通りよ。彼が、どう思っていたかなんてどうでもいいの。でも私は、彼にお礼すら言えなかった。そして、その時初めて、家族以外の他人の愛を知った。

明美

あなたは、彼の変わりに、彼の息子さん、原田努を幸せにしたいのね。

未来

そんなセンチメンタルな思いじゃないわ。私は、与えられた愛を、今度は与える愛に変換しただけ。今の私は、席を確保しなくても自分で席を作れるようになった。それを証明したいだけよ。

明美

それで、クローンを、彼に与えたの？

野村

相変わらず、気の強い姉さんだ。可愛げがないねえ。

未来

もう寝るわ。くだらない事を話してしまったわね。(退場)

明美

未来…。

野村

本音じゃないよ。悔しいんだよ未来は。

明美

悔しい？

野村

先生のお父さんに「愛してる」って言えなかった事が…未来こそが人生をやり直したいのかもしれないな。

明美

でも、先生にさゆりさんのクローンを与えて、彼のお父さんへの愛情を示すなんて事…ただの傲慢だわ。

野村

そうか？少しは分かるんじゃないか？俺達は、周りの愛情を受けて育ってきた。だがその愛情は、障害を持つ人間への憐れみから来るもので、言ってしまうえば同情だ。そんな中で生きてきて、他人に何かを与える喜びをここで知ってしまった。俺達はそこに幸せを見出してるんじゃないのか？

明美

確かに、そうかもしれないけど…。

野村

未来は、気が強いからなあ。同情の眼の中で育ってきた事自体、耐え難いもんだったんだろう。

明美

あなたは、クローンに賛成なの？

野村

何とも言えないねえ。進化した科学技術に人間の倫理観が追いつけないのは、永遠の課題だよ。1996年にクローン羊のドリーが誕生した。でも、倫理観の問題からクローンに関する研究は、禁止する方向

に向かった。

明美

それは、仕方ない事だと思わ。人権の問題にも関わってくるもの。

野村

そこだよ。今ある技術を否定して、その上に成り立つ人間社会。言い

変えれば、実際は出来る事なのに、無かった事にしなければ、今の人間社会は成り立たない。

明美

何が言いたいの？

野村

矛盾してるってことさ。こんな研究が進めば、世の中便利になるんじゃないかって思って、科学技術は発展する。だが、実際は持て余して

しまう。この村は、その技術をとことんまで研究できるけど…。

明美

…何？

野村

果たして、人間が追いついてこれるかどうかだ。

明美

先生は、クローンを持て余してしまう？

野村

どうだかね。先生次第なんじゃないのか？

明美

あなたも、未来と同じように言うのね。

野村

君のせいじゃないって言いたいだけさ。それに、俺はあのクローンの

方が哀れだと思っけどね。

明美

…そうね。

野村

考えていても仕方が無い。もう動き出してしまっている。先生の選択が、俺達の運命も左右するかもしれないな。

明美

選択？

野村

ここを受け入れるか、否定するか。君だって、気づいているはずだ。

急激な発展は存続を脅かす事に。

明美

そうね。この村は、発展し続けた。あの先生は、私達に何かしらの答

えを出すのかしら？

野村

今は、何とも言えない。

明美

相変わらず、良く分からない人ね。

野村

そうか？分かりやすいと思うけど…。

野村が明美を見つめる。

耐えきれなくなつて、明美が目線を切る。

野村

何故、目を反らす？

明美

私達…本当は、もういい年なのよ。

野村

だから？

明美

本当の姿じゃないわ。

野村

そうか…。

明美

ごめんなさい。

野村

僕が嫌い？

明美
野村
明美
野村

そんな事ないわ。でも…。

だったら、待っててもいいね。時間はある。

懲りない人ね。

あきらめが悪い性質（たち）なんでね。

二人少し笑う。

舞台暗転

BGM「穏やかな村②」

8 「田中実」

BGM 「穏やかな村②」残しつつ
灯りが点くと、村「天国」。

舞台奥の日本家屋（原田の仮住まい）の庭先で、原田とさゆり（クローン）が、寄り添っている。手を握ったまま、幸せそうにしている二人。暫くして、さゆりがその場を立つ。

さゆり

食事の支度をしてきますね。

原田

ああ。今日は何だい？

さゆり

貴方の好きな、カレーよ。

原田

ああ、そうだな。君のカレーが一番おいしい。

さゆり

待っててね。

さゆり退場。

暫くして、田中実が、庭先に現れる。
その姿に原田が気づく。

原田

あゝ。何か？

実

帰った方が良い。ここはいずれ滅する。

原田

突然何ですか？…あなた、もしかして…田中真知子さんのご主人？

実

真知子に会ったのか。あれには、可哀想な事をした。

原田

やっぱり。あなたどうして、真知子さんを追い返したりしたんです？

実

真知子の為だ。

原田

彼女は、あなたと一緒に居たかったですよ。

実

…人間は欲深い。あれにはそうなって欲しくなかった。一時は私もこ

の姿になる事を選択したが、今は後悔している。君も早く、帰った方が良い。私のようになってはいけない。

原田

貴方以外の人は、皆、幸せそうにしていますよ。

実

この住人もいずれ気づく。いや、もう気づいている人間もいる。こ

こは地獄だ。

原田

地獄？ここはどこが？

実

生きる事と生かされてる事は違う。死があるから生がある。そんな簡

単な事によろやく気づいた。私は愚かだ…。

原田

あなただって、何かを抱えて生きてきて、ここに来て幸せを得られた

んじゃないんですか？

実

…私は花屋だった。と言っても品種改良をしていた方だがね。言って

みりゃ、科学者みたいなものだ。ずっと、青いバラを作ろうと研究していたよ。もう少しして時に身体を壊してしまい、とてもじゃないが研究を続けられるような状態では無くなった。そんな時、認知症になりここへ来た。歩く事さえ困難だった私は、ゲートまでいくのも大変だったが、何となく感じていたよ。導かれるままに行けば、研究を続けられるんじゃないかってね。

原田

そして、ここへ来て、研究を続けた。

実

(頷いて) 7年が経ち、ようやく若い身体を手に入れたまさにその時だったよ。日本とオーストラリアの共同研究で、青いバラが開発された。もう私が研究する必要が無くなったんだ。

原田

生きがいが無くなったと？確かに気の毒に思いますが、また新しい研究をすればいいじゃないですか？元気な体を手に入れたんですから。

実

勿論、私もそう思ったよ。だが気がついたんだ。そうやって私の研究はいつまで続くのか…とね。それに私がバラの研究をし始めたのは、美しい花を見て喜ぶ人の顔を見たからだ。勿論ここでも、作った花を渡せば喜ばれるが、何かが違う。

原田

どういう事ですか？

実

ここにいる人間は二種類いる。己の幸せの追求をとことんしている者か、追求し終えてどうしていいか分からない人間だ。

原田

前者でいけばここは天国だと思いますよ。時間を置いても、新たな幸せの追求をすればいい。

実

後者は地獄だ。そしてどちらの人間も、自分の事しか考えていない。だから、人から貰った花などに心から喜ぶはずもない。

原田

それは、思い過ごしではないんですか？

実

（首を振って）人間は欲深い。欲だけは際限が無い。美しさを追求すれば、とめどなく顔を変え、元の姿を留めなくなる。力を得れば更なる力を、それに、この人間はいくらでもやり直せる。ゲームのようにいくらでもリセット出来る。始めはそれが素晴らしいと思うだろうが、果たしてどれだけの人間が、同じゲームをやり続ける事が出来るだろうか？

原田

：分かりません。

実

君の彼女はクローンだと聞いた。

原田

（少しムツとして）だから、何です？

実

別に、悪いとは言わない。今の彼女に満足していてもそれはいい。でも君は、この先彼女に何も求めないと言い切れるか？二十年后に二人ともまた若くなる事だって出来る。でもそれは、老いた彼女の姿を否定している事に他ならない。

原田

老いた彼女を好きでいられる自信はあります。

実

そして、二人とも老いたまま、永遠に生きるのかね？ここに死は無いのだよ。

原田

…。

実

この人間に、自分が育てた花をあげた時、笑顔を見せてはいるが、特に興味はなさそうだった。自分の事ばかり考えているからだともいえるが、それとは違う別の理由もあった。

原田

別の理由？

実

当たり前だが、花は枯れる。ここでなら枯れない花を作る事も出来るが、私はそうはしなかった。何故なら花は枯れるから、美しいんだ。そして分かった。この人間は、一時のはかなさを美しいと感じる心を失ってしまう。人生もまた、限りがあるから美しいのに…。

原田

僕に言わせれば、綺麗事だ。少なくとも私は、この幸せを手放すつもりはない。

実

…そうか。その幸せに欲が加わらない事を願うよ。

未来と明美が現れる。

未来

田中さん、言いくい事なんですけど、いずれ分かかってしまう事ですから…お伝えします。(明美を見る)

明美

…真知子さんが亡くなりました。

原田

え？

明美

自殺だそうです。マスコミが騒いでます。私達もそれで知りました。

実

…自殺？

未来

遺書もあったそうです。

実

…何て、何て書いてあった？

未来

…。

明美

(言えない未来を察して)『お爺さんに会いに行く』…と。

実

…真知子。…殺してくれ…俺を殺してくれ！

泣き崩れる実。

抱える原田。

舞台暗転(転換#9へ)

BGM「不穏な気配」

9 「天国の限界」

村「天国」の研究室。
未来と明美と野村が話している。

野村 …田中の爺さんは、どうしてる？
明美 今は、薬で眠ってるけど、そろそろ起きる頃だわ。後で、様子を見に行くつもり。
野村 そうだな。

間

未来 …（明美に）何か言いたそうね。
明美 いえ、ただ、初めてだったから…。
未来 そうね。ここが始まって以来ね、「死にたい」って言ってきた人は…。
野村 ここが出来て三十年。綻びも出始める時期か…。
未来 対応しなくちゃね。
野村 「対応」ね…。
未来 何なの？

野村

別に。ただ、俺達の相手は科学ではなく人間なんだって事。忘れない方がいいぜ。

未来

お説教するつもり？

野村

いいや。未来には未来の考えがあるって信じてるよ。

未来

…。

野村

…さてと。俺は、田中の爺さんの様子でも見てくるか。

野村退場

暫くして

明美

…田中さんだけじゃないのよ。この状況に疑問を抱き始めてるのは…未来も気づいてるでしょ？

未来

ええ、分かってるわ。でも、乗り越えられると思ってる。

明美

どうやって？

未来

それは…問題を整理してからよ。

明美

人間は、一人一人価値観も考え方も違う。そして死の概念も違う。あなたも知ってる通り、今一番増えてきているのは、無気力な人。そして、欲に支配されてしまう人。始めは生きる意欲だったものが、時と共に形を変えてしまう。何度も若返りを要求してきたり、美容整形を

未来

明美

未来

明美

未来

明美

未来

明美

未来

明美

未来

要求してきたり、私は毎日と言っていい程、皆の欲を叶える為に手術しているわ。心の中でこんなはずじゃなかったと思いつながらね。そして一番厄介なのは、名誉欲。自分の存在を世間に公表したいという欲望。当たり前だけど、この狭い世界の中でそれだけは叶えられない。一つだけ方法があるわ。

え？

名誉欲を抑え、ここを存続する為の方法よ。一つだけあるわ。

何なの？

記憶を消すの。本当に生まれ変わるのよ。

未来：。何を言ってるの？それじゃあ、今までやってきた事は何だったの？

外の世界で得られなかった幸せを、ここで追求してもらおうと、この村を作った。だけど、人間の心は弱すぎる。永遠の命に対しても、欲に対しても。だから記憶を消して、新たな目標を持って生きてもらうの。

その目標すら、インプットする気？

そうよ。

未来：あなたは、神にでもなるつもり？そんなの狂ってるわ。

じゃあ、あなたは、今ここに居る人達をどうするつもり？彼らは永遠

明美

未来

明美

未来

明美

未来

明美

未来

明美

未来

明美

未来

に生きる人達なのよ。見捨てるつもりなの？

それは…。

代案が無いのなら、私の言う通りにして。

先生は？原田先生はどうするつもり？

例外は無いわ。新たな記憶をインプットして。さゆりさんのクローンも、もう必要無いわ。

必要無いって…。殺すつもり？

もともと、存在しない人間よ。

あなた、矛盾してる。ここにいる人達は、既に存在しない人達なのよ。

ええそう！あなたも私もね！

…未来。あなたも迷っているのね。そんなあなた、初めて見たわ。

…明美。私は間違っていないわ…皆、長生きしたいと思っている。私はそれを叶えているだけ。それのどこがいけないのかしら？

未来…。

…暫くは、ゲートの使用を中止して。記憶の消去は準備が出来次第、始めましょう。

野村が走り込んでくる。

明美
野村

どうしたの？

田中の爺さんが、死んでる…。

舞台暗転（転換#10へ）

BGM「君と共に」

別空間に田中実の姿が浮かび上がる

首を吊ろうとしている様子。（踏み台に上る）

実

私は愚かだった。人間は生まれた瞬間から、死に向かって生きてるんだ。真知子、君と出会ったのも、その貴重な日々の中で起きた奇跡だったんだ。…青いバラがなかなか出来ずに悩んでいた時、お前は俺が捨てた出来そこないのバラを部屋に飾った。私は「そんなもの捨てる」と言っただけだったが、お前は「折角、綺麗に咲いているのに」と言っただけで、悲しそうにゴミ箱に捨てていたな…すまなかった。その通りだ。私は君の人生すら、ゴミ箱に捨ててしまったようなものだ。綺麗に咲いていた君の人生を…。お前が行った天国に私はいない。今、私も行くよ。

首輪に首をかける。

実

向こうで、君と出会えるだろうか？君は許してくれるだろうか？真知子…。

踏み台から飛び降りる
暗転

#10 「さゆり（クローン）の意思」

SE 「鳥の声」

村「天国」の朝。原田の仮住まい。

庭先で、さゆりが掃除をしている。

原田 朝から、掃除かい？

さゆり その方が、あなたが気持ち良く居られるんじゃないかと思って。ごめ

んなさい。起こしちゃった？

原田 いいや。あまり、よく寝れなかったから…。

さゆり そうだったの。もう少し寝ても良いわよ。

原田 …そうやって、休みの日は、いつも君は僕を気遣ってくれた。

さゆり そうね。

原田 僕が寝ている間、君は何をしていたんだい？

さゆり …ごめんなさい。分からないわ。

原田 そうだったね。君は、僕の知ってる事しか知らない。愚問だったな。

さゆり …そうだわ。コーヒーでも淹れます？美味しいコーヒーを明美さんか

ら頂いたの。あなたの好きなキリマンジャロよ。（微笑む）

原田 君はいつも笑顔なんだね。いや、僕が知ってるさゆりが、いつも笑顔

だったからか…。

貴方と居れる事が幸せだからよ。

その感情すらも、僕が描いたさゆりの像かもしれないな。

…。

ごめん、困らせるつもりはないんだが…。

いいえ。自分がクローンである事は分かってるわ。だから、謝らなくていいのよ。

…君はどう思う？ 田中さんの事。

自殺なさった事は聞きました。お気の毒に思います。あなたも少なからず、ショックだったんじゃないかと…。

さゆりならそう答えるだろう。君は、僕の言って欲しい事を言ってくれる。だけど、君自身の意思みたいなものが感じられない。

…私は、あなたの喜びが私の喜び。あなたの幸せが私の幸せだと感じる様に作られたクローンだから。

嫌じゃないのかい？

いいえ。

僕を愛している？

勿論よ。

それは、僕が愛しているから？

さゆり

原田

さゆり

…そう。多分…。

原田

僕は、僕の帰りを待っていたさゆりが、何をしていたか知らない。何を思っていたのかも分からない。僕に会うまでのさゆりの歴史を知らない。きっと僕が思うさゆりは、本当のさゆりの半分にも満たないかもしれない…。

さゆり

そうね。…でも、そればかりはどうにもならないわ。

原田

君と会って、共通の喜びを増やしていけばいいと思っていた。でもそれは私の傲慢なのかもしれない。

さゆり

もう、私を愛せない？

原田

分からない…ただ君はさゆりではない事は確かだ。そして、今でも僕は、本当のさゆりを愛している。

さゆり

…何となく感じていたわ。

原田

僕の為に生まれてきたのに…すまない。

さゆり

…あなたと出会って、少しの間でも愛されて、私の中に初めての感情が生まれたわ。恐らくそれは…嫉妬。

原田

嫉妬？君が？

さゆり

私は、ある程度の感情はインプットされていた。でも、本当の感情ってこうやって自分の物になっていくんだって感じたの。人と出会って、会話をして、色んな感情が生まれてくる。私は、もう既に死んでしま

った、私とそっくりな人に対して嫉妬を感じた。そして私の中にも、欲が生まれた。

原田

欲？

さゆり
私の人生を生きてみたいって。色んな世界を見て、私なりの人生を生きて、私の意思で誰かを愛したいって。

原田

：そうか。そんな事を考えていたのか。

さゆり

クローン失格ね。

原田

（笑って）そんな事無い。素晴らしいじゃないか。未来さんには話したのか？

さゆり

未来さんには：まだ。多分反対される。私は、貴方をここに引き留めるための道具なのだから。

原田

そうまでして、何故僕に興味があるのか分からないが：。

さゆり

私も分からない：ただ、未来さんは貴方に特別な感情があるのかもしれない。愛情に近いものが：これは、私の勘だけだ。

原田

まあ、僕の事はいい。ただ、君が外に出て人生を生きてみたいというのなら、僕も是非とも協力したい。

さゆり

ありがとう。明美さんなら、協力してくれるかもしれないわ。明美さんは、今の未来さんに、疑問を感じているの。田中さんの事もあるわ。村全体が、危うくなっている。

原田

ゲートも今は、閉じられているみたいだしな。

さゆり

(頷いて) 人生を何度やり直しても、永遠に続く命の中で希望を持ち続けるのは無理があるって、明美さん言ってたわ。私もそう思う。

原田

(苦笑する)。

さゆり

何故笑うの？

原田

『君には意思が感じられない』と言ったが、違ったようだ。立派な意思を持った一人の人間じゃないか。

さゆり

本当に？ そうだとしたら、嬉しいわ。貴方に出会って、この村の人とも交流を持って、知らないうちに、色んな事を学んだのかもしれない。

原田

そうだな。人と出会い、色んな感情を持って人間は育つ。

さゆり

一度きりの人生に希望を持って…。

原田

君に教えられるとはな… (笑って) その通りだ。さゆり… いや、もうさゆりとは呼べないな。そうだ、幸子って名前はどうか？

幸子

幸子？

原田

幸せの子と書いて幸子… ありきたりだが。

幸子

私は、幸子。素敵な名前。

原田

幸子、君の願いが叶えられるよう、何とかして外に出よう。

幸子

嬉しい。ありがとう！

原田

…その笑顔が見たかった。それが君の本当の笑顔だ。

二人、笑い合う。

舞台暗転（転換#12へ）

1 1 「明美の決意」

SE 「機械音」

1 0 からすぐに移行（別空間）

設定は、村の研究室。（セットは無し）

※ # 1 0 の村のセットは # 1 2 （素舞台）へ

明美が、液体の入った小ビンを持って、考え事をして
いる。

そこへ、野村が来る。

野村

未来は？

明美

（小ビンを隠して）寝てる。

野村

ゲートを閉じて、村が危機に直面していても、寝てしまいますか。

明美

未来の場合は仕方が無いわ。

野村

村の人間の記憶を消去するって？

明美

確かに、存続するにはそれしかないかもね…。

野村

…何を考えている？

明美

…あなたは？

野村

質問に質問で返すのかい？それは卑怯だよ。

明美
野村

そうね。でも、あなたなら、私の考えている事が分かると思ってるわ。
光荣だね…。

二人見つめ合う

野村

(見つめたまま) …もう、十分生きたな。

明美

…ええ。この人達も、本当ならもう既に死んでるわ。

野村

最近、来た人間はどうする？

明美

ゲートを閉じる前に元の世界に帰したわ。原田先生は、未来が監視してたから無理だったけど。

野村

流石だな。こうなる事を予想してたのか？

明美

どうかしら…ただ、この住人を増やしてはいけない気がしてた。ずっと前から。

野村

未来は気づいてなかったのか？

明美

気づいてたと思う。ただ、未来もこの限界を感じてたんじゃないかしら。

野村

そうだな。眠り姫も解決策を見いだせない…か。お手上げだな。

明美

他人事みたいに言うのね。あなたはいつもそう。

野村

ハハハ。単純にお調子者なのさ。

明美

そうじゃない事は、私知ってるわ。

明美から手を繋ぐ。

野村

(その手を見て) 外見が若くなって、いつの間にか喋り方まで、若い頃みたいになってるけど、こういう時、情熱的なキスが出来ない。…年かな。(苦笑する)

明美

この顔も唇も、年齢を重ねたものじゃない。そんな唇を奪っても、空しいだけよ。

野村

それが、僕らの現実か。

明美

(手を離す) 私達の現実には、大勢の人を巻き込んで、この地獄を作ってしまったという事。それは私達の罪。

野村

罪か…。人間がやってはいけない事だったのかもな。「天国」を作るなんて事。

明美

私は、遺伝子学や細胞学を学んで、遺伝子レベルでの身体の修復も可能にできた。でも、修復って何なのかしら?そもそも欠陥って何なのかしら?人間は欠陥だらけだわ、体も心も。

野村

医療には限界が無い。だが、人間には限界がある。

明美

人間の限界?

野村

身体が死ぬ事と心が死ぬ事は、違うって事だ。

明美

心が死ぬ：それが、人間の限界。でも、ここにはまだ生きていたい人もいるわ。

野村

それが、一番の罪だな。俺達がやろうとしている事は、まだ生きたい人まで殺す大量殺人だ。

明美

俺達？

野村

君だけに、その罪を背負わせないよ。というより俺がやる。

野村、明美に手を差し出し、促す。

明美、小ビンを取り出す。

明美

せめて、苦しまずに…。眠るように心臓が止まるわ。村の水道に流そうと思っ…。

野村

分かった。原田先生はどうする？

明美

未来が寝ている間にゲートに連れて行くわ。彼は、まだ死ぬべき人ではない。

野村

賛成だ。

明美

それは、私がやるわ。それにあのクローンの願いも叶えてあげたい。その準備も出来てるわ。

野村

新たな人生か：クローンが自我を持つとはねえ、人間ってのは本当に神秘だ。

明美

(笑って) そうね。私に考えがあるの。彼女の人生は、一から始めなきゃいけない。きつと原田先生も受けとめてくれるわ。

野村

君の最後の仕事か：。僕も最後の仕事をしよう。

野村、小ビンごと明美の手を握る。

明美

ねえ、お願いがあるの。

野村

何だい？

明美

キスして。

野村

いいのかい？空しいんじゃないのか？

明美

最後のキスよ。空しくてもいいわ。それとも、こんなお婆ちゃんとは嫌？

野村

まさか：。

二人キスをする。

暫くして

明美

…あの世で会いましょう。

野村

いや、生まれ変わって、君とまた会いたい。続きをしよう。

明美

…素敵ね。

明美、野村に小ビンを渡す。

明美

…さよなら。

明美退場。

野村

…「さよなら」なんて言葉忘れていたよ。こんなにも切ないんだな。(涙をぬぐって) …泣いているのか？俺が？…ああ、これが人間の感情だ。これが、生きているって事なんだ…。

暗転

12 「未来の選択」

灯りが点くと、素舞台

中央奥に、ゲート（灯り工夫）

原田と明美が走り込んでくる。

原田 幸子は？

明美 後から行くわ。心配しないで。

原田 ありがとう、明美さん。でも、君もここから逃げた方がいい。

明美 それは出来ないわ。私なりの「けじめ」をつけなければ。

原田 けじめ？

SE 「警告音↓機械STOP音」

ゲートの灯りが消える

明美

ゲートが！

未来が現れる。

未来

こんな事だろうと思った。

原田

未来さん…。

明美

お願いよ、未来。ゲートを開けて、先生を元の世界に帰してあげて。

彼はまだ、ここへ来る予定ではなかった。

未来

誰も出してはいけなと言ったはずよ。

明美

もう止めましょう。あなただって分かっているはずよ。この村はもう…。

未来

終わらせないわ。ここは、私がこの世に存在する理由。この「天国」

を作る為に、私は生まれてきた。

明美

ここは、本当の天国ではないわ。

未来

明美、あなたは自分のしてきた事を否定するの？随分、無責任ね。

明美

…。

原田

…君達の作ったこの村は、まさに天国だった。僕も始めはそう思った。

夢のような不老不死、若返り…我慢して、生きてきた人にもう一度希望を与える。

未来

そうよ。ここへ来た人は、この村を、幸せの追求が出来るまさに理想

郷だと言って「天国」と呼んだの。

原田

でも、違うんだよ未来さん。人間は、いつか消える命だからこそ、そ

こに希望を見出し、夢を持って生きられるんだ。

未来

それが、死にゆく事を正当化する言い訳だと、何故、貴方達は気づかないの？

原田

…さゆりが死んだ時、同じ脳梗塞で死んだ男性に、小学生の息子がいた。その子に『人間は、どうせみんな死ぬんでしょ？』と聞かれたよ。僕が何も考えずに、そうだと答えると『じゃあ、何で生まれてくるの？』と更に聞かれた。…答えられなかったよ。今も答えられないだろう。でも、これだけは言える。生まれてきた事に感謝出来るのは、死ぬからなんだ。限りがあるから、幸せになろうと努力する。それこそが、幸せの追求だ。

未来

理不尽に死んでいく子供だっているわ。彼らは幸せだったと思う？ 殺された人は？ あなたの奥さんは？

原田

分からない。ただ、さゆりは、僕を幸せにしてくれた。少なくとも、僕が死ぬまでは、僕の中に彼女は生きている。それが彼女の生きた証でもある。

未来

エゴイスト。結局は、自分が納得するように解釈しているだけじゃない。

明美

それは、あなたもよ。

原田

…明美さん。

明美

そして、私も…。私達は、自分の存在意義をこの村で求めたかっただ

未来
明美

け。求められたわけではないわ。それこそエゴイストよ。
私達の、独りよがりだとしても言うの？
そうよ。科学がどんなに進歩しても、それが人の為にならなかつたら、
毒と同じよ。それにね、未来…。

明美が未来に近寄り、抱擁する。

明美

私達がいなくても、世の中は動いていくわ。そして、世の中が私達を
受け入れる事は、この先もないのよ…。

二人、静かに離れて

未来がスイッチのようなものを取り出す。

未来がスイッチを押すと、ゲートの灯りが点く

SE 「スイッチ音く機械作動音」

明美

未来…。

未来

誤解しないで、私は生きていだけ生きる。いつか来る未来（みらい）
は私を受け入れてくれるでしょう。それまで私は生き抜くわ。

明美

…。

未来

あなたは、ここにいる人達を全て殺す気でのね。そして、あなたも死ぬ気でのね。野村と共に。

原田

え？（驚いて明美を見る）

明美

ええ、そうよ。

未来

好きにすればいいわ。私は一人でも、また理想郷を作る。違った形でのね。今度こそ本当の天国を作って見せるわ。その邪魔はさせない。

明美

…分かったわ。

未来

先生、お別れね。いえ、私には別れなんてない。…いつかまた会いましょう。

原田

いや、もう二度と会う事はないだろう。さよなら、未来さん。

明美

さよなら、先生。

原田

明美さん、君は…。

明美

そんな顔しないで。もう十分生きたわ。これでいいのよ。

原田

…もう、僕に出来る事はないんだね。

明美

ええ。先生は、しっかり生きて。さゆりさんの思い出と共に。

原田

…分かった。ありがとう。…さよなら。（ゲートに移動する）

未来

原田先生。あなたは、お父さんに似ているわ…。

SE 「ワープ音」

原田

え？

SE 「ワープ音（どんどん強くなる）」

未来

私が愛した、たった一人の…。

未来の声かSEにかき消される。

光が走り、暗転

再び灯りが点くと、未来と明美の姿が消える

SE 「赤ちゃんの泣き声」

舞台の片隅に、赤ちゃんが布にくるまれて置かれている。

原田

幸子…？

原田がその赤ちゃんを抱き上げる

SE 「赤ちゃんの笑い声」

原田

いい笑顔だ…。

BGM 「暗転 (轉換#13へ) 幸せの追求」

原田の家。(居間)

テーブルの上には、パソコンが置いてある。

SE「テレビの音」(天気予報など)

少し年老いた原田がソファに横たわってテレビを見ている。

そこへ、高校生の幸子が慌てて走り込んでくる。

出かける準備をしながら

幸子

あ、遅刻。ちよっとお父さん、また私のパソコン使ってる。

原田

ああ、調べものがあってな。ちよっと、借りた。

幸子

いいけど、戻しておいてよ。それから、休みなら洗濯しておいて。

原田

はいはい。：幸子、お前どっか行くのか？

幸子

デート。

原田

何？彼氏がいるなんて聞いてないぞ。

幸子

私、もう高校生よ。彼氏の一人や二人いてもいいじゃない。

原田

二人いるのか？

幸子

違うわよ。(時計を見て) ああ、もう無理。完璧遅刻だわ。(上着を着

原田
幸子
原田

ながら）行ってきました！（退場）
遅くなるなよ。

（OFFで）遅くなるわよ。

全く……。空を見つめて）未来さん、どこかで見ているのか？この幸せな日常を……。あの時、ああ言ったが、もしあの子が事故や病気になったら……。あの子を残して自分が死ななければいけない事態になったら、僕はあの時と同じ事が言えるだろうか？……人間は強欲な生き物だな。

原田退場 舞台溶暗

パソコンが勝手に起動する

SE「PC起動音」

パソコンの文字が舞台奥に投影される（スクリーンのようなものに投影）

SE「キーボードを叩く音」

次の文字が一文ずつ映し出される。

『天国で待ってるわ……』

幕